

古文書を読む会学習記録

作成日 平成25年7月26日

開催日	平成25年7月25 日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	14 名
講 師	真田雅行氏	作成者	鈴木浩士
テーマ	第二学習 富士大山道中雑記 附江之嶋鎌倉③		
概 要	<p>富士大山道中記の3回目。 六月廿五日に甲斐の国を出た一行は富士山、大山の参詣を終え、帰路江の島、鎌倉に立ち寄っている。以下道中記の記述を追ってみる。</p> <p>『六月晦日に子安宿を出立。伊勢原、田原、四ツ谷と過ぎ、藤沢に入った。藤沢では遊行寺へ参詣。小栗判官の塚や堀田家の墓、照手姫所持の鏡などを拝観し、江の島向かう。江の島では下の宮、上の宮、本宮を参拝。その後茶屋で休憩したが、全てが絶景であり、しかも茶屋毎に遠眼鏡があつて相州三浦三崎や七里ガ浜まで見渡せた。この島の裏手に岩屋弁天がある。およそ三丁(約300m)もある湿った、暗い穴で、途中に神仏が置かれているのが、灯火により漸く見える。この辺りには漁師、大勢の子供がおり、賃銭を受けて鮑(あわび)を取ってくる。日が西山に傾いたので宿をとった。料理は新鮮で風味は格別、しかも二階座敷からは海原が見渡せる。この宿の屋号は煙波楼といい、蜀山人が名付けたらしい。宿屋の主人は風雅を好み多くの短冊や掛物を持っており、筆者が所望したら端書を1枚くれた。旅籠料は 一両一分余(但し五人分)。なお、武兵衛(宿主人)は御師(おし)、名主役も勤めているらしい。ここには遊婦はいない。もっとも一里の藤沢駅から呼寄せることが出来るが、足代含め一人二百文もかかり無益であると武兵衛が言うので、止めにした。</p> <p>七月朔日。明六ツ時過ぎ出立。すぐに七里ガ浜の波打ち際を通行。気持ちが良く昨夜の醉眠が一時に退散した。鎌倉までの途中に腰越と言うところがあり、ここに弁慶自筆の腰越状があるとのこと。寺号は分からなかったが、後で万福寺であると聞いた。また、袖ヶ浦では鎌倉見物案内の者を雇った。そこを出ると鎌倉権五郎景政の社、手玉石、袂(たもと)石があり、社前には力餅屋もある。これより宿や光則寺を通り高德院に至る。本尊大仏は 高さ 五丈、耳の長さ 六尺六寸、膝の開き 六間二尺。但し雨晒しで、頼朝公の建立とのこと。この後、星月夜の井戸、長谷寺観音を参拝。』</p>		
補助資料			
備 考			
次回予定	平成25年8月8日 10:00～12:00	於: 金沢公会堂3号室	柴村・斎田家文書 ⑧